

議会報告会 町に対する意見・要望（回答）

（開催：平成２８年３月２２日から３月２５日）

- 1 ロッジ栗の木の利用率（稼働率）を高めるため管理運営を民間に委託するなど、具体的な工夫が必要ではないか。

（回答）ロッジ栗の木につきましては、現在、研修宿泊施設として貸し出しを行っており、年間１０件程度（延べ利用日数３０日程度）の利用実績となっております。

今後、施設の利用方法等の検討を進めるとともに、町ホームページ等を活用し、施設の積極的なＰＲを行うなど利用率を高めるよう努めてまいります。

- 2 きのこ総研の悪臭は、多少の改善はあるようだが未だにひどく、また虫の害もあるので一層の指導を。

（回答）北海道きのこ生産総合研究所（きのこ総研）鳩山生産工場における廃菌床に起因する悪臭や汚水については、かねてより近隣の住民や企業より苦情が寄せられており、その都度、きのこ総研側に対策を要請してまいりました。

平成２６年に抜本的な解決策として、きのこ総研側より廃菌床の堆肥化に当たり、平成２７年８月末までに別の箇所への移動について提案があったところです。

平成２７年８月末に現地確認をしたところ、廃菌床については大部分が移動されており、工場から排出されて間もない移動予定の廃菌床の一部のみが仮置きされている状況で、問題となっていた臭いや汚水についても廃菌床が減少したことから、大幅に改善されているものと判断しているところです。

今後も継続して現地の状況を確認しながら、対策が必要な状況になれば企業側に改善の要請をしてまいります。

- 3 ごみの広域化によって将来的にごみの排出や分別の方法が現在とどのように変わるのか、情報を早めに。

（回答）道央廃棄物処理組合による焼却処理は、平成３６年４月の稼働を目指し、現在焼却施設建設用地の取得作業が進められております。

広域処理に伴いごみの分別方法を一部変更しますが、家庭ごみの排出方法に変更はなく、現在と同様にステーション回収及び自己搬入による回収を行う予定です。

分別方法は、現在の生ごみ・炭にできるごみ・炭にできないごみは「燃やせるごみ」に、炭にできないごみの一部は「燃やせないごみ」に変更します。

また、分別の変更に合わせて指定袋の変更を行います。時期は平成３１年４月頃を予定しておりますので、町民の皆様にご協力いただき早期に説明会を実施するとともに、町広報等で周知を行ってまいります。

なお、資源ごみの分別方法の変更は予定しておりませんので、現在の分別区分により回収を行う予定であります。

- 4 道道札幌夕張線から日出生活館に上がって行く道路（町道？）の奥の方にある側溝が雨

が降ると土砂で埋まり側溝の機能を果たさず雨水が溢れるので、その対応をお願いできないか。

(回答) 現場を確認し、適切な処置を行います。

5 角田鉾線の大型車両の通行で地域住民の生活や通行に支障を来さないよう、道路の整備、維持を。

(回答) 角田鉾線につきましては、地域からの要望を受け、昨年度に車両退避場の整備や案内看板の設置を行っております。

また、工事等関係者に対し、安全運転の徹底及びスピードダウンの要請等も行ったところであります。

今後も、地域住民の生活や通行に支障をきたさないよう、適切な維持管理を継続してまいります。

6 町営バスの日出線は予約運行バスで、その利用者の多くは高齢者のため予約忘れもあるので、「1時間前までの予約」について、柔軟な対応をお願いできないか。

(回答) バス運行中など運転手が運転業務を行っている場合、運行会社と運転手の連絡が取れなくなる場合があります。

運転手と確実に連絡が取れる時間や移動に要する時間等を考慮し、運行の1時間前までの予約をお願いしておりますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

7 自治区構想が示され10年ほどだが、認知度が低く全町的な立ち上がりが遅いのではないか。

(回答) 自治区構想に関わっては、昨年11月に「角田地区まちづくり協議会」が新たに設立され、現在、栗山市街8地区と継立地区を併せ10協議会となっております。

各協議会ごと、防災対策事業のほか、防犯や福祉・交流事業など、地域実情に応じた幅広い取り組みが展開されております。

これらの活動は、地域コミュニティの再生・強化、さらに、本町のまちづくりに必要不可欠であることから、今後、町広報などを通じて積極的に情報発信し、全町展開につなげていきたいと考えております。

8 まちなか 街中の空き地や空き店舗の解消を具体的にどのようにしようと考えているのか。

(回答) 空き店舗につきましては、平成22年度より7・8区の新町通り及び駅前通り商店街の区域を対象に「栗山町空き店舗活用支援事業」により、空き店舗を活用し開業される方へ助成を実施しているところであります。本事業については、これまで14件の申請件数及び1年経過後の助成実績については11件となっております。

引き続き、同事業による空き店舗の活用に対する支援に加え、今後につきましては、対象区域内にも目立ち始めました空き地についても新規店舗の建築などを推進する手法について検討してまいりたいと考えております。

9 町外の病院にかからなければならない場合もあるので、子ども医療費助成の対象を町外の通院まで拡大することはできないか。

(回答) 本町においては、医療機関のご協力をいただき近町より診療科が充実しております。それを踏まえ、本町における子ども医療費助成制度は、入院は町外医療機関も対象としておりますが、通院は、現在、医科・歯科ともに地元医療機関で対応可能と考えております。従いまして、町外の通院までの拡大は現在のところ考えておりません。

10 新しく建て替えられた曙団地の床のきしみ音がひどいので、現地を確認して対応を。

(回答) 曙団地につきましては、入居後の1か月点検として、本年4月15、16日の2日間で現地確認をし、床版の歪みや建具の調整等の手直しを実施しております。

今後も、木材の乾燥等による手直しが必要になることがあれば、個別に対応してまいります。

11 角田農村環境改善センターに新たに設けられた駐車場の出入口は一か所で、特に冬期間の出入りに不便があるので、もう一か所設けることはできないか。

また、防犯上から外灯の設置をお願いできないか。

(回答) 駐車場に複数の出入口を設けた場合、駐車場内での混乱が予想されること、また、冬期間は西側を雪の堆雪場に行っていることから、出入口を一か所に行しております。

出入口の幅員については、十分に車が交差できる幅で整備しておりますので、ご理解願います。

また、現在の駐車場の歩道には、街路灯が1基設置されておりますが、駐車場の利用状況、必要性などを総合的に判断したうえで、検討してまいります。

12 町長の海外視察の状況に関する情報を町広報紙で町民に早期公開を。

(回答) 町長の海外視察につきましては、本町が抱える懸案事項や目まぐるしく変化する社会環境に対し速やかに対応するため、諸外国の先進都市に町長自らが赴き、行政実情の情報収集に努めているところであります。

視察内容につきましては、諸会議等を通じ、先進地の状況等を関係者の方々にご報告してまいりましたが、今後におきましては、町ホームページ等を活用し、皆さんに周知してまいります。

13 町道栗山由仁線の東側の植栽は、除雪に支障を来していないのか。

植栽は、必要なのか。

(回答) 栗山由仁線の除雪作業につきましては、これまで車道及び歩道全てをグレーダーにより実施してまいりました。

昨年末に、一部植栽を実施したことにより、その区間の歩道については、歩道用ロータリー除雪車で実施しており、除雪作業に支障はありません。

また、植栽につきましては、冬期間の吹き溜まりや視程障害を防ぐ防風林等の役割

も担うなど、交通安全上からも必要と考えております。

14 大井分地区の夕鉄跡地の下水道工事で下水道管理設後の道路舗装は、当初全面舗装と聞いていたが、部分舗装で完了した。 段差もあり全面舗装とならないのか。

(回答) 町道角田大井分線につきまして、道路改良工事完了からの経過年数が6年程度であり、舗装面の損傷も見受けられなかったため、当初全面の舗装復旧を予定しておりましたが、半断面の舗装といたしました。

段差等につきましては、随時補修にて対応してまいります。

15 毎年、春先の雪解けと同時に町道の痛みや段差の激しいところが見受けられるので、早急な対応を。

(回答) 春先の雪解けシーズンは、道路の痛みや段差が生じることを受け、担当職員がパトロール等を実施し、随時対応しております。

段差については、冬期間の凍上が主な原因であり、暖かくなると段差が解消される箇所がほとんどですが、今後も適切な維持管理を継続してまいります。

16 旧継立地区農業集落排水処理場の跡地利用の具体的計画は。

(回答) 旧継立地区農業集落排水処理場につきましては、管理棟の一部を防災用品備蓄庫に、処理水槽を防火水槽として活用し、敷地は災害時消火訓練会場に利用することが決まっております。

民間のコンサルタント会社より、施設の立地条件と機能特性を最大限に活かす方法として、農産物貯蔵・加工施設としての活用提案がありましたが、施設改修費や維持管理費、加工品販売の採算性など検討すべき事項が多く残っており、具体的な計画に至っていない状況であります。

今後、地元地域の皆さんをはじめ、関係機関・団体などと連携し、他の活用方法についても検討してまいります。

17 若者（定住）対策として、もっと働く場を。

(回答) ハローワーク夕張の管内は、全国的に見ても有効求人倍率の高い地域となっており、栗山町内の企業にとっても人手不足の状態となっております。

しかし、働こうとする方々にとって募集する企業の職種や条件など、より多くの選択肢があれば町外への転出者を抑え、町内への転入者を見込むことが出来ます。

今後、栗山工業団地内企業との情報交換や企業誘致活動、創業支援について関係機関と協力しながら積極的に行ってまいります。

併せて、若者世代が働く場を確保することは重要課題であることから、情報提供なども行ってまいります。

18 地元の栗山高等学校の新卒者を町職員として採用する考えは。

(回答) これまで行財改革プランとの関係もあり、職員の採用に当たっては、年度にもよ

りますが、採用者ゼロあるいは、多い年でも1名ないし2名程度と抑えてきており、即戦力であります大学卒業あるいは社会人を中心に採用を行ってきたところであり
ます。

今後におきましては、毎年度、複数名の職員採用を計画しておりますので、若年者の雇用確保の観点からも、地元高校生の新卒者の採用も検討してまいります。

19 松栄団地の床下点検口の水溜りの早期解消を。

(回答) 松栄団地につきましては、敷地内の地下水位が高いため、新築時に建物周囲に暗渠排水を入れるなどの対応をしておりますが、一部の住棟については、床下点検口を開けると地下水が溜まっている状況を確認しております。

この住棟につきましては、定期的に水中ポンプにより排水処理するなど、適宜対応してまいります。

20 松栄団地内の問題であるが、高齢化のため共用灯の電気料金の集金に苦慮しているので、町から何か良い方法を示してもらえないか。

(回答) 町内各公営住宅における共用灯の電気料金につきましては、各公営住宅又は町内会等でご負担をいただいております。

集金方法につきましては、各公営住宅等で異なると思いますが、棟毎に集金し全体で集約のうえ支払う方法や、町内会の全体予算で対応する方法などが考えられます。

北電や各公営住宅が属する町内会とも相談するなど、ご検討いただきたいと思います。

21 松栄団地集会所を地域としては避難所と位置付けているので、耐震化をお願いすることはできないか。

(回答) 町では、昭和56年以前の旧耐震基準により建築された公共施設について、必要に応じて耐震改修工事による耐震化を行っております。

松栄団地集会所については、平成23年の建築であり、新築時より既に新耐震基準を満たしているため、耐震化の必要のない建築物となっております。

22 町のホームページは、早期に更新を。

(回答) 町ホームページにつきましては、行政の情報やまちの情報・出来事など、迅速に町民及び町外の人に周知しているところであります。

今後におきましても、更新頻度を高めるとともに、一層の情報の充実を図り、わかりやすく見やすいホームページ作りに努めてまいります。

23 町道湯地継立線（栗山中学校付近）を明らかに制限速度オーバーしている通勤者と思われる自動車が登校時に走行していて事故が懸念されるので、安全確保のため常時警察と連携して対応することはできないか。

(回答) 栗山警察署へ、パトロール強化の要請をいたします。

24 王子研究所の跡地利用に関して何か進展は。

(回答) 町内、湯地における王子研究所の跡地につきましては現在、活用されていない状態ですが、所有する王子ホールディングス㈱により定期的に草刈等の維持管理は行われております。

将来的な活用については同社と活用計画の確認等を含め、情報交換を行いながら施設の有効活用、周辺整備について検討してまいります。

25 資格取得助成のほかに、町として栗山高等学校の魅力アップにつながるような、何か方策の検討は。

(回答) 栗山高等学校入学者の減少は高校の存続に関わることから、平成27年度から魅力ある高校づくりに資するため「資格取得助成事業」を開始したところであります。

また、平成27年度より3年間、道教委が栗山高等学校と町内各小中学校を指定校として実施する「小中校一貫ふるさとキャリア教育推進事業」に協力しています。

概要につきましては、小学校から高校までの12年間を通じてキャリアノートを活用しながら、「つながる力」「自分を見つめる力」「行動する力」「夢やライフプランを描く力」「自他を大切にする心」「ふるさとを誇りに思う心」の6つの力を、継続的に育成していくものとなっております。